

城陽市障がい者自立支援協議会

第14回 療育部会報告書

報告者 部会長 障害児（者）地域療育支援センターういる 松崎 菜緒

標記について下記のとおり報告します。

日 時	平成27年1月15日（木）
場 所	城陽市立福祉センター2F 和室
出席者	城陽市福祉課 相談支援事業所（障害児（者）地域療育支援センターういる） サービス提供事業所 （あっぷ、きりん、城陽市社会福祉協議会訪問介護センター、 汽車ぼっぼ、指定居宅介護事業所チャレンジ、 そらいろ、ふたば園、ものづくりスペースみんななかま）
検討課題	… 事業所疑似見学（情報交換）。その他、今年度の振り返りと次年度に向けて等

【議事録】

1. はじめに

* 前回の振り返り（別紙）

- ・宇治支援学校との交流会 資料配布

2. 事業所疑似見学会（7事業所）

* 事業所疑似見学会（スライドショーを用い、説明）

- ・そらいろ⇒ちゃれんじ⇒きりん⇒汽車ぼっぼ⇒ふたば園⇒みんななかまの順

※あっぷについては、前回（第4回時）発表

* 感想

- ・他事業所の支援方法をこうしてみる機会がなかったので新鮮だった
- ・集団の中での支援について考える機会になった
- ・社会性の伝え方について参考になった
- ・同じ児童の支援でもこれだけの違い、努力を見ることができた
- ・普段の活動以外での活動をしていきたいと思った
- ・児童デイの工夫を、日中一時に参考にしていきたいと思った
- ・定型発達の子が経験したことのないことが経験できる、良い学びの場になっている
- ・集団の良さもあるが、誰もいないということもいい面。色々な事業所を使うことは、それぞれの特色がある中で解消していく課題があるということがわかった。
- ・取り組みの状況等、細かく知る機会ができてよかった

* 成果

- ・現場の職員が日頃の支援について、どんな工夫をして行っているか、配慮している内容を知りその事業所の特色を知ったうえで、現場の職員や相談員が連携を取り、横のつながりを強化するための機会となった。

3. その他

* 全体会 資料確認

- ・次年度の課題について、普通級の子で不登校になっている子、何人いるかわからない状況で、触法行為になっていきかねない子をどうしていくかについて
⇒圏域の発達部会でも…、という一文を盛り込む。

* 次年度に向けての意見

・前回までに出た課題

- ①インフォーマルな社会資源についての情報交換
- ②支援級の先生との交流を検討
- ③障害児サービス等利用計画の事業所間での引き継ぎについて

・他、気になること（意見交換）

- ①不登校の子や診断が下りていない子どもへの支援について

⇒発達部会と連携を取って進めていく。現在、発達部会の作成しているルールもとに、本人のためにどうするか、検討していくという方向で部会でも活用できるのではないかな。

⇒発達障害の方のための専門の相談機関がうまく機能できていないように感じる。実際にどう支援していくかを検討していけば良いのではないかな

* 次年度の療育部会について

- ・第3週の木曜日 10時～12時で基本的には開催予定
(長期休み等、学校の休暇や行事予定と重複する月は除く)